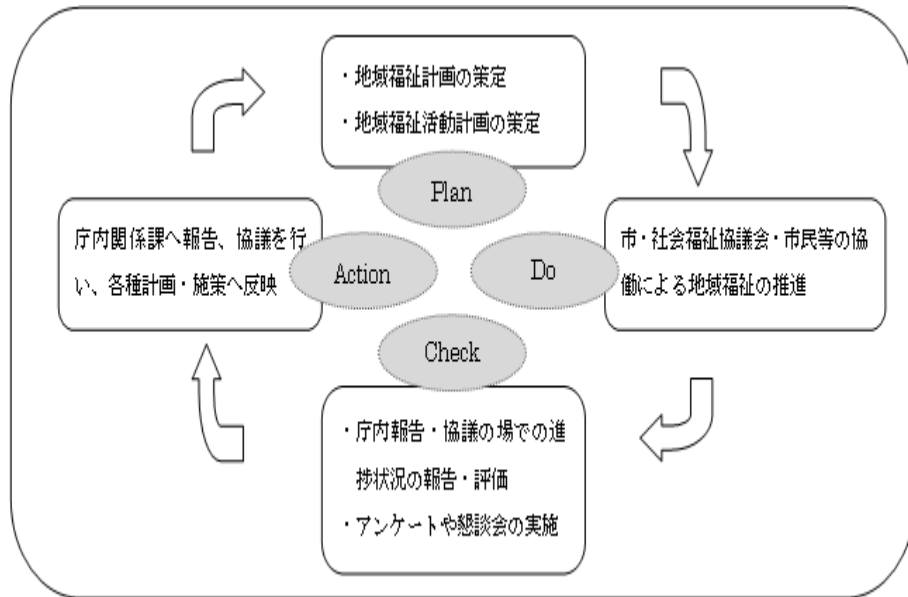


地域福祉関係事業評価報告書 の概要について

事業評価について

本庄市地域福祉計画（5か年 平成26年度～30年度）

- ・・・ 平成28年度は計画中間年として、PDCAサイクルの
C（評価）を行う。



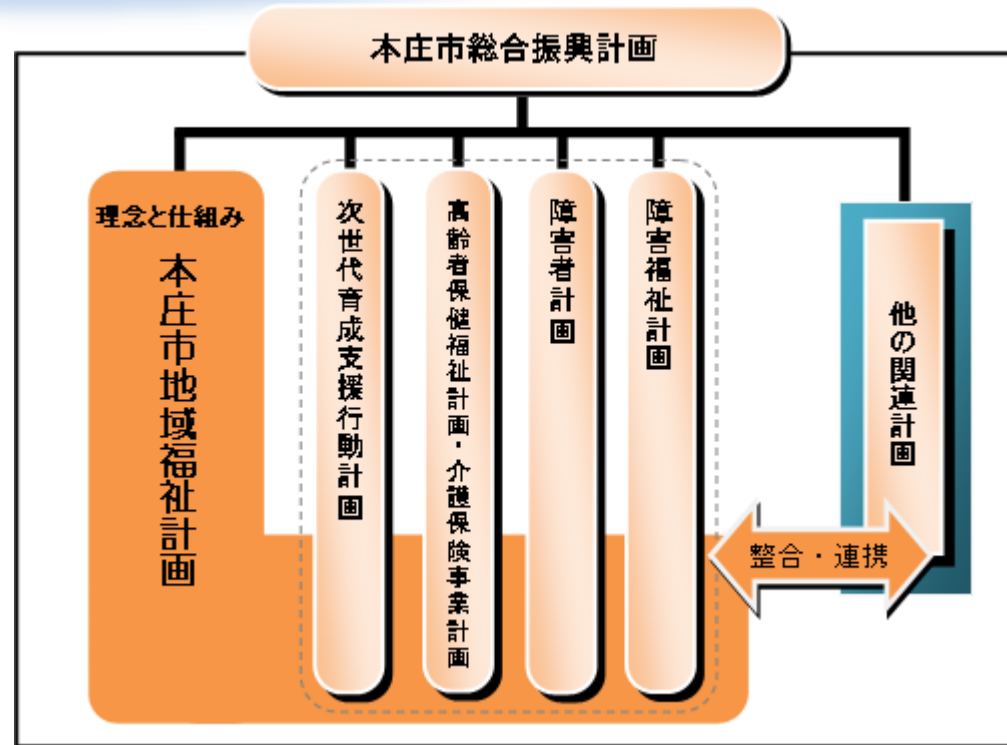
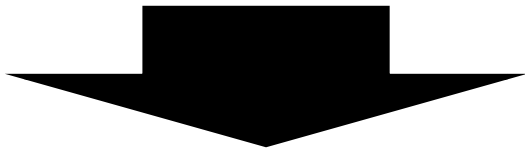
進行管理と評価について

	市・社会福祉協議会	市民参加のプロセス
平成26年度	進行管理・進捗状況の報告	計画の実行
平成27年度	進行管理・進捗状況の報告	計画の実行
平成28年度	中間評価・進行管理・進捗状況の報告	中間評価（住民懇談会）
平成29年度	進行管理・進捗状況の報告 第2期計画策定の準備	第2期計画策定委員会発足 住民・団体アンケート
平成30年度	最終評価・進行管理・進捗状況の報告 第2期計画の策定	最終評価（住民懇談会）

事業評価について

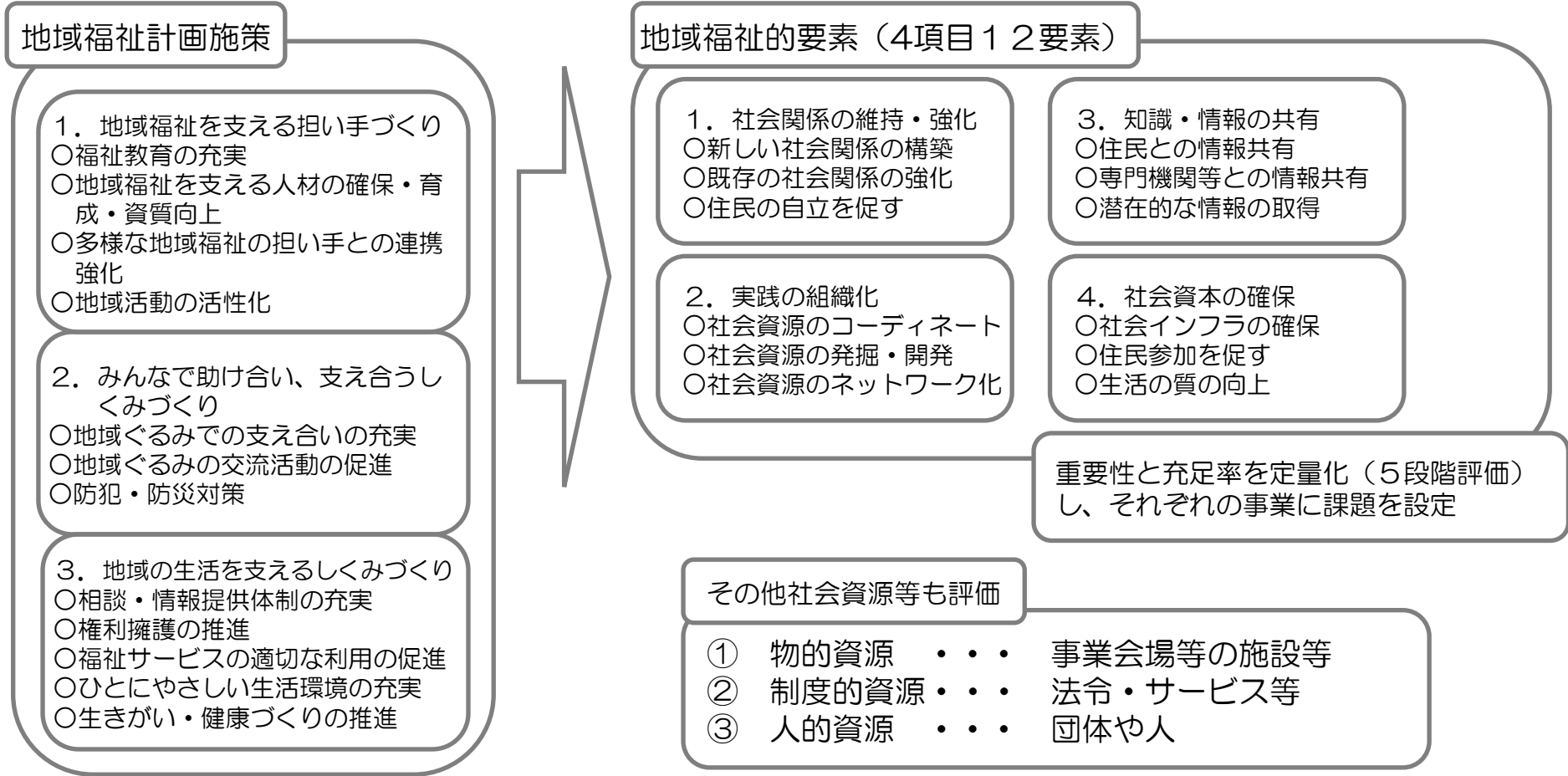
地域福祉計画の特徴

- ★ 分野横断的、総合的な施策体系を持つ
- ★ 個別福祉事業計画と理念と仕組みを“共有”する
- ★ 具体事業を持たず、目標と施策の方向性を示す



評価軸： 個別福祉事業計画に地域福祉計画の理念と仕組みがどの程度反映されているかを評価。ただし、地域福祉計画による事業評価はあくまでも各個別福祉事業計画を補完するためのもの

評価項目： ① 地域福祉計画における各施策に内在する4項目12要素を「地域福祉的要素」として社会資源等と共に評価



② 各事業における「地域福祉的要素」に関する「課題」を設定

評価事業について

評価事業：地域福祉計画と、理念と仕組みを共有する事業計画掲載事業

対象事業計画：高齢者分野 ○第7次本庄市高齢者保健福祉事業計画・第6期本庄市介護保険事業計画
障害者分野 ○第2期本庄市障害者計画・第4期本庄市障害福祉計画
児童分野 ○本庄市子ども・子育て支援事業計画

事業数：193事業（別紙の通り）

社会資源（物的資源）の評価結果

① 物的資源とは

物的資源：事業を実施する上で利用する施設や社会インフラ
例えば… はにぽんプラザ、自治会館、病院等

② 物的資源の評価結果

活用率… 87.6%（193事業中169事業で活用）

一事業あたりの平均活用数※… 2.08件

（※資源を活用している事業の平均活用数）

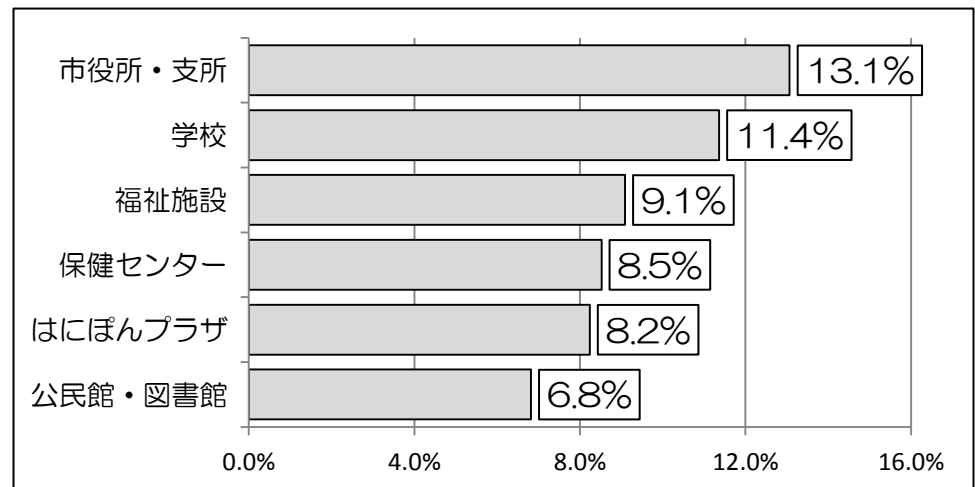
③ 内訳

○上位6施設の内、5つが
公的施設



公的施設の活用が進んでいる

物的資源の内訳（上位6施設）



社会資源（制度的資源）の評価結果

① 制度的資源とは

制度的資源：事業を実施する上で利用する法制度やサービス等
○フォーマルな制度的資源…法令や制度に基づくサービス（介護保険サービス等）

○インフォーマルな制度的資源…住民等の自主的な活動によるサービス（ボランティア活動やサロン活動等）

② 評価結果

フォーマル

活用率…64.2%（193事業中124事業で活用）

一事業あたりの平均活用数…1.75件

インフォーマル

活用率…10.4%（193事業中20事業で活用）

一事業あたりの平均活用数…1.25件

③ 制度的資源の内訳

フォーマル

○法令や行政計画 89.9%

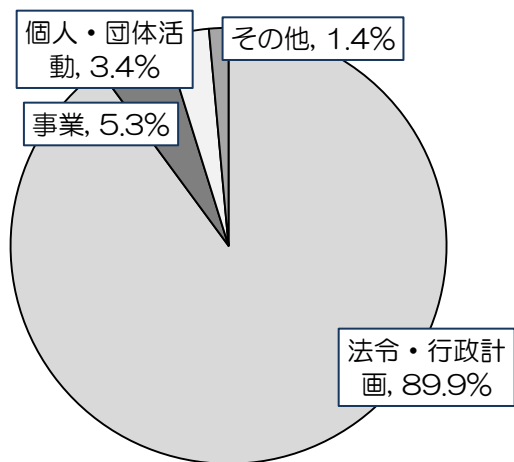
○事業やサービスを資源として挙げた例はわずか

インフォーマル

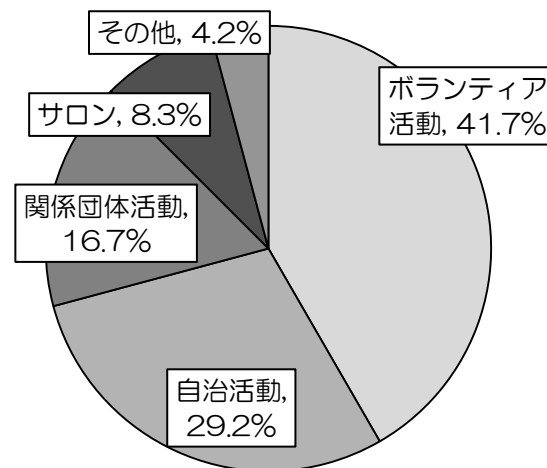
○ボランティアによる活動が 41.7%

○自治会や地域住民による活動が 29.2%

フォーマルな制度的資源の内訳



インフォーマルな制度的資源の内訳



社会資源（人的資源）の評価結果

① 人的資源とは

人的資源：事業を実施する上で活動する人や団体

○フォーマルな人的資源…法令や制度に基づく団体や役職を持った人
（団体職員、民生委員、社会福祉協議会等）

○インフォーマルな人的資源…自主的あるいは非営利の活動を行っている人や団体等（ボランティア・NPO等）

② 評価結果

フォーマル

活用率…71.0%（193事業中137事業で活用）

一事業あたりの平均活用数…2.46件

インフォーマル

活用率…30.1%（193事業中58事業で活用）

一事業あたりの平均活用数…1.76件

③ 人的資源の内訳

フォーマル

○医療福祉専門職と行政で76.0%

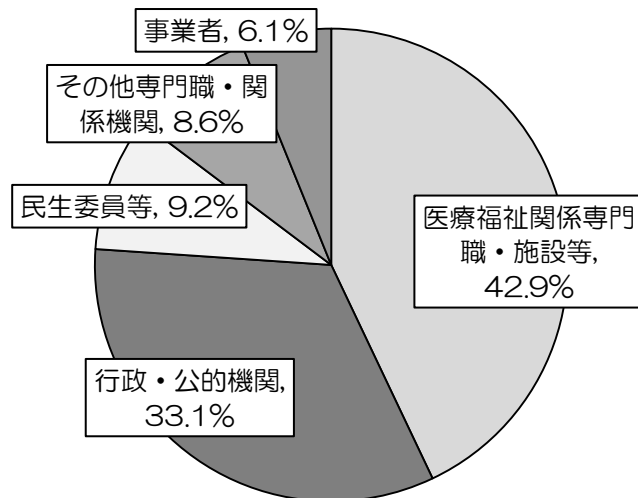
○民間事業者（福祉関係者）以外の活用はわずか

インフォーマル

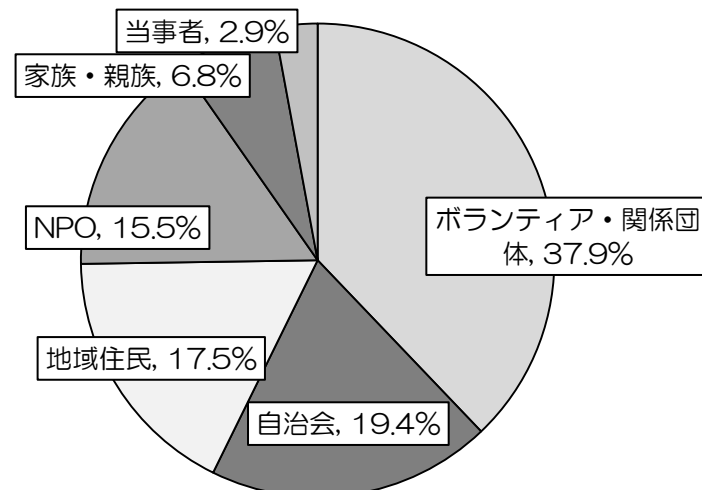
○ボランティア団体等の活用割合が高い

○当事者の活用はわずか（2.9%）

フォーマルな人的資源の内訳



インフォーマルな人的資源の内訳



地域福祉的要素と充足率の評価結果

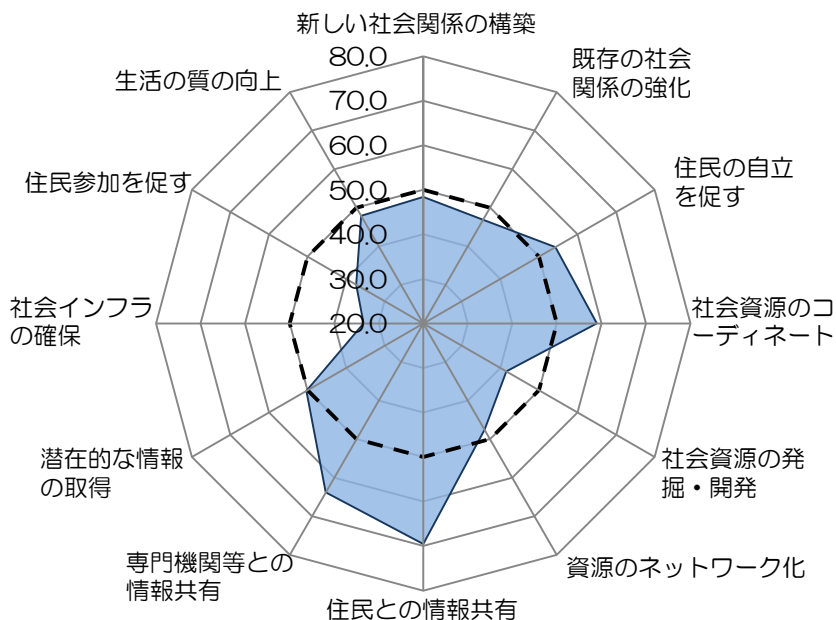
地域福祉的要素の重要性の評価結果

各要素の平均得点… 2.54点（5点満点）

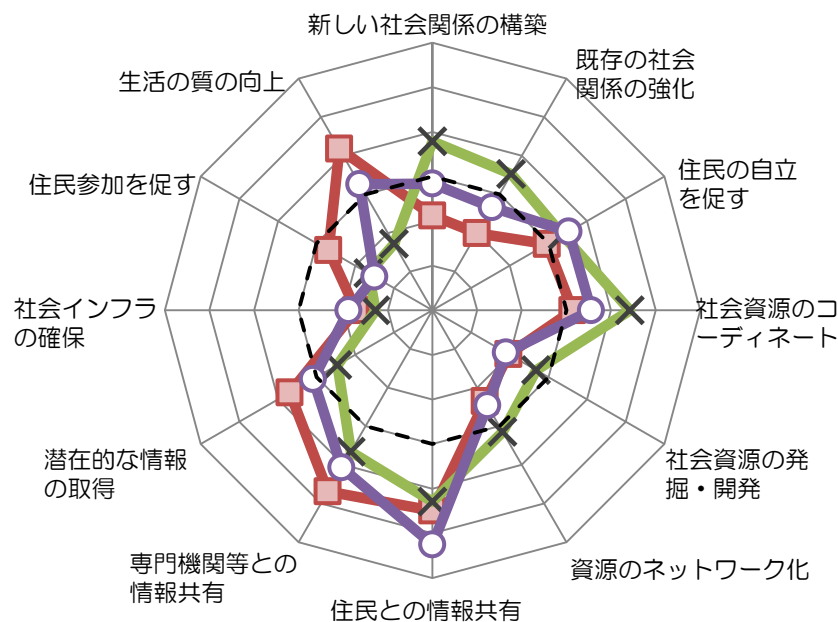
分野別の平均得点… ○高齢者分野：2.96点 ○障害者分野：2.37点 ○児童分野：2.41点

概要… 社会資源のコーディネート、情報共有に関する要素の得点が高い
 社会インフラの整備、住民参加、社会資源の開発・発掘に関する要素の得点が高い
 福祉3分野（高齢者・障害者・児童）で得点や得点傾向には**差がある**

全事業の要素別平均得点傾向



分野ごとの要素別平均得点傾向



各要素ごとの平均得点を全要素の平均得点から偏差値として算出。
 --- は平均値を示す（偏差値50のライン）。

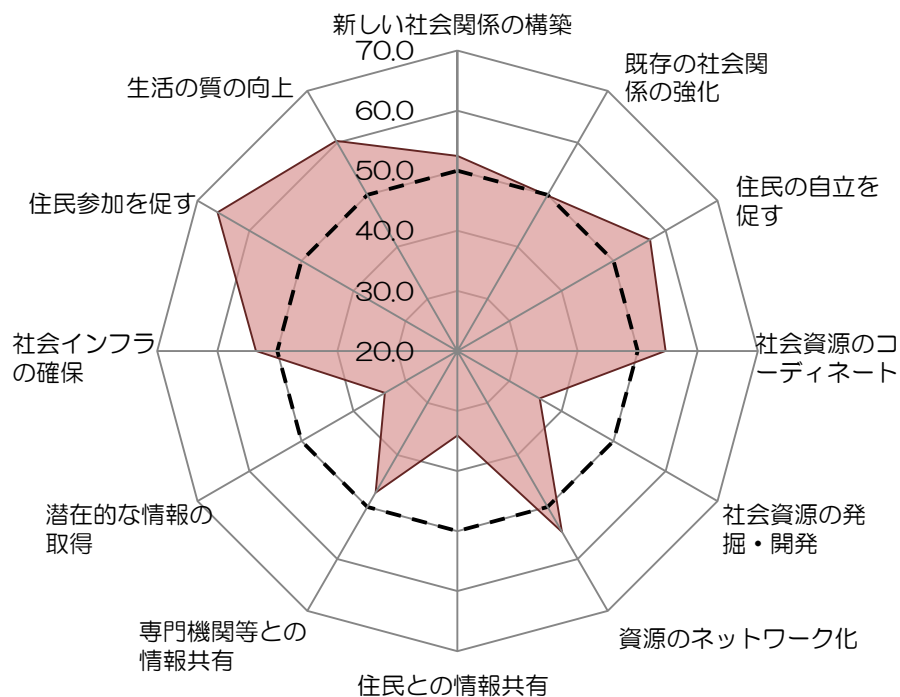
■ 高齢者福祉分野 × 障害者福祉分野 ○ 児童福祉分野

地域福祉的要素の充足率の評価結果

平均充足率… 83.5%

概要… 社会インフラの整備、住民参加を促す、生活の質の向上に資する要素の充足率が高い
社会資源の開発・発掘、情報共有や取得に関する要素の充足率が低い

全事業の要素別平均充足率傾向



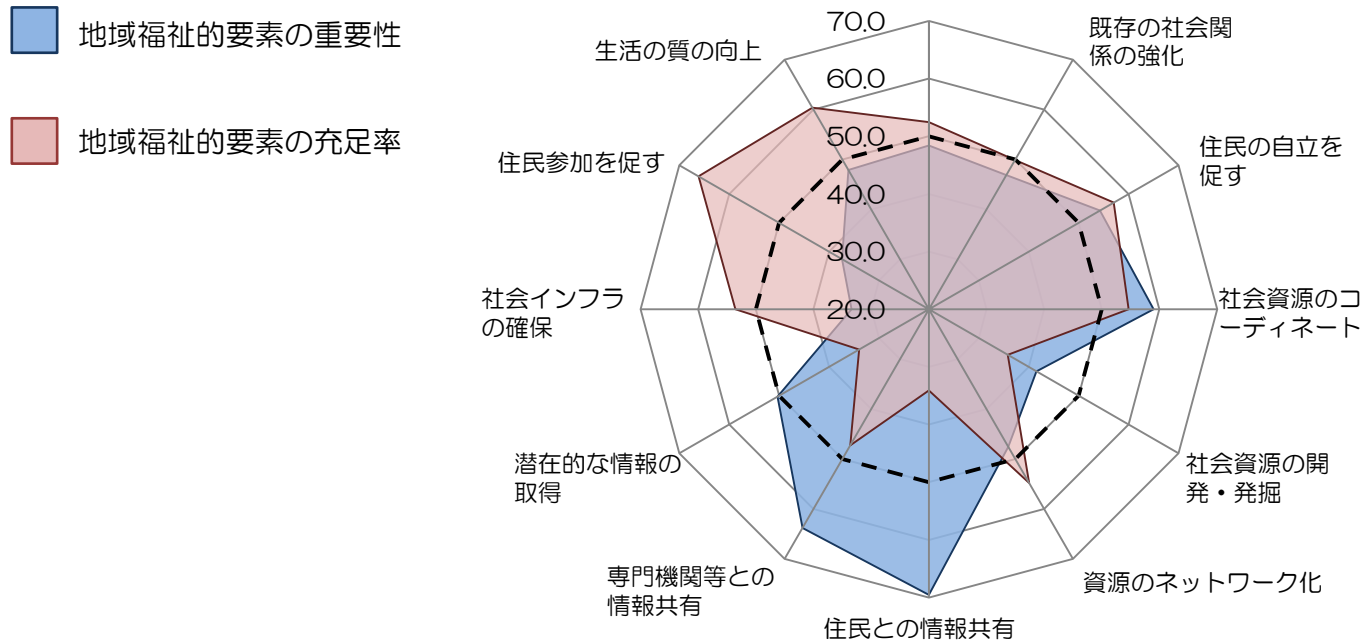
各要素ごとの平均充足率を全要素の平均充足率から偏差値として算出。--- は分野ごとの平均値を示す（偏差値50のライン）。

地域福祉的要素と充足率の評価結果

本庄市の地域福祉的要素の特徴

- 「情報の共有に関する要素」と「社会資本に関する要素」は要素の重要性と充足率が**対照的**
- 社会資源のコーディネートに関する要素は、重要性も充足率も比較的高い
- 新しい社会資源の開発や発掘に関する要素は重要性も充足率も低い

全事業の要素別平均得点と充足率を重ねて図示



事業課題の検討結果

○充足率が低い地域福祉的要素から、各事業における課題を設定した

☆事業課題（344課題）は大別して次の3つの方向性を持つ

① ネットワーク化・体制整備…

- 多様な社会資源と連携した相談・支援体制の整備に関する課題（118課題）

☆ フォーマルな社会資源の連携についての課題が大半

☆ インフォーマル社会資源との連携についてはほとんど課題として挙げられていない

② 市民・関係団体等への情報提供…

- 事業及び事業活動の意義等についての周知啓発に関する課題（90課題）

☆ 事業やサービスの周知不足、情報提供機会の拡大について言及された

☆ 情報の利用しやすさ（アクセシビリティ）に関する課題はあまり挙げられていない

③ 社会資源の活用・育成・開発…

- 施設や設備、サービス、人材の活用、育成、開発に関する課題（88課題）

☆ 施設のバリアフリーに関する課題が多数挙げられた

☆ ニーズの掘り起こしや潜在的な対象者の把握に関する課題はわずかだった

④ その他…

☆ サービス利用料の軽減や事業拡大 等

○各事業課題の“構造”は共通

○ 活動主体との情報共有・共通認識の形成

○ 事業への“参加”手法の改善

等々…



☆ 課題が挙げられた事業に限らず、様々な事業で検討する余地がある

本市の強みと弱み

本庄市の強み

- 専門職、公的機関等のフォーマルな社会資源との連携・ネットワーク形成への意識

→ 専門的支援・ケアの充実

- 専門職の支援だけでニーズが充足できるか？

本庄市の弱み

- ボランティア、NPO、自治会等のインフォーマルな社会資源との連携
- 制度にあてはまらないニーズ等への新しい社会資源の発掘や開発
- 事業の利用や参加のしやすさ（アクセシビリティ）への認識

→ “地域生活” と “事業” がリンクしない

- 地域における“住民主体”の社会福祉となっているか？

社会資源の評価

フォーマルな社会資源の活用率が高い

インフォーマルな制度的資源や人的資源があまり活用されていない

地域福祉的要素と充足率

社会資源のコーディネートと専門機関等との情報共有に関する要素の重要性を強く意識し、充足率も高く評価されている

社会資源開発、潜在的な情報の取得、社会インフラ、住民参加を促す要素の重要性の認識が低い

社会資源の開発、潜在的な情報の取得に関する要素の充足率が低い

課題認識

「フォーマル連携」を強く志向

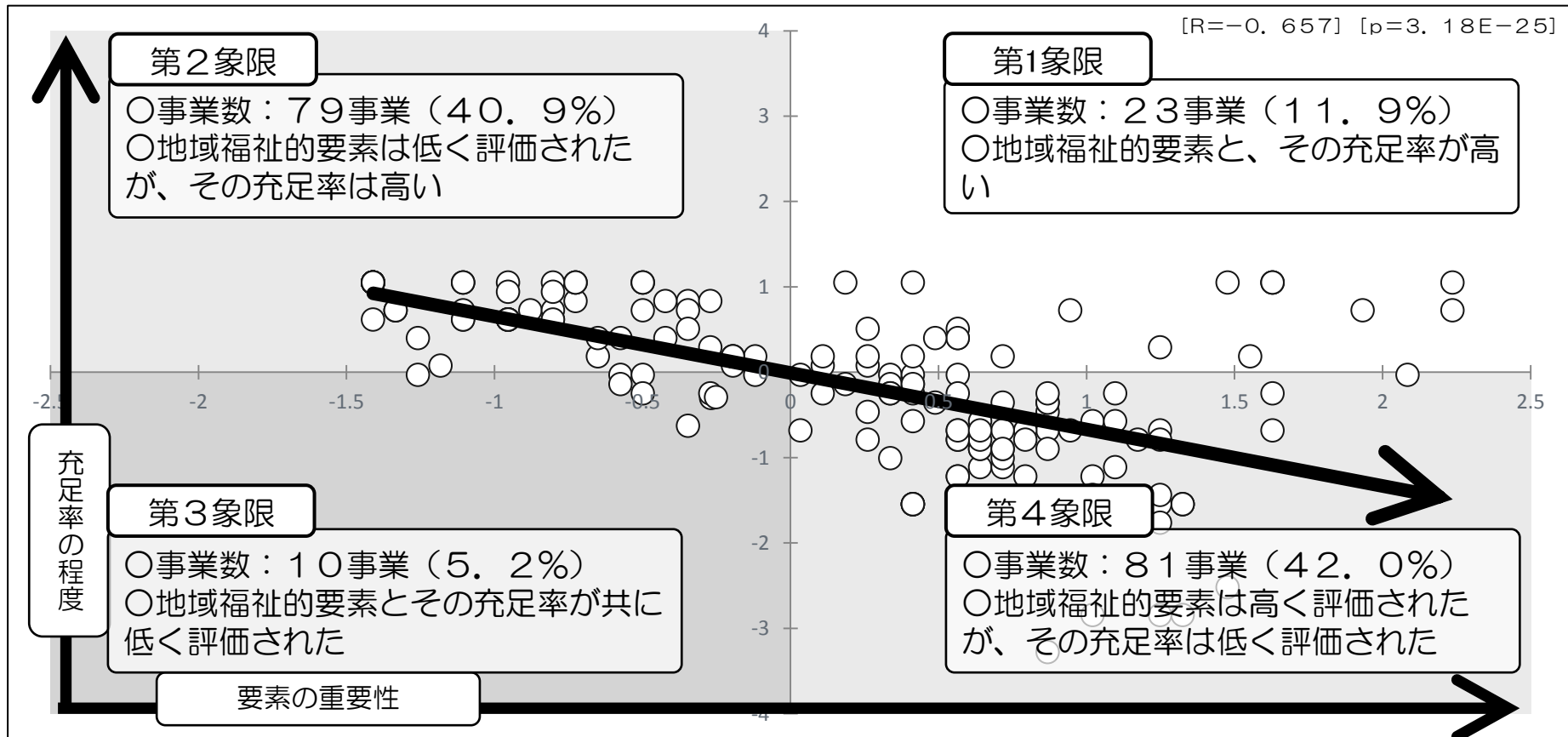
「インフォーマル連携」、「多職種連携」、「ニーズの掘り起こし」、「アクセシビリティ」に関する言及が少ない

地域福祉関係事業の相関分析

- 地域福祉的要素の重要性と充足率の相関関係を検証し、今後の地域福祉関係事業の方向性を検討

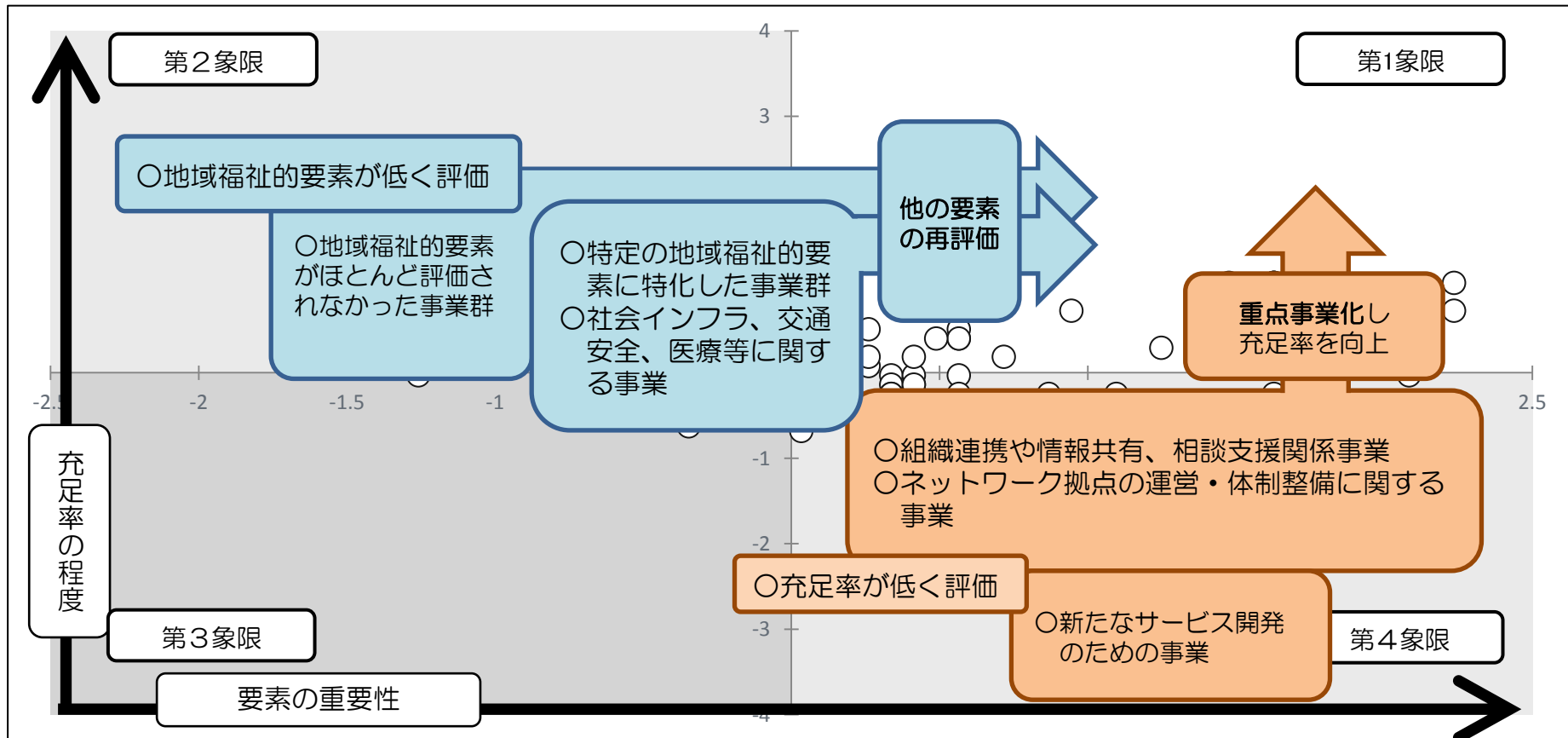


- 地域福祉的要素の重要性が高く評価された事業ほど充足率が低い結果



今後の地域福祉関係事業の方向性

- 地域福祉的要素が低く評価された事業
 - 評価されなかった要素の重要性について再評価し、地域福祉の理念と仕組みの浸透を図る
- 充足率が低く評価された事業
 - 地域福祉計画において重点事業化を視野に充足率の向上を図る。その中で、本市の弱みである、インフォーマルな資源との連携を同時に進めていく



今後の方向性

評価 (Check)

本庄市の強み

- 専門職、公的機関等のフォーマルな社会資源との連携・ネットワーク形成への意識

本庄市の弱み

- ボランティア、自治会等のインフォーマルな社会資源との連携
- 制度にあてはまらないニーズ等への新しい社会資源の発掘や開発
- 事業の利用や参加のしやすさ（アクセシビリティ）への認識

改善 (Action)

- 具体事業において、充足率をさらに高める中で、本市の強みをさらに高め、弱みを克服するための施策の検討（平成29年度～）
- 地域福祉の理念と仕組みをさらに浸透させていくための議論の拡大（平成29年度～）

次期計画 (Plan)

- 次期計画の策定（平成30年度）